

群 教 セ	G01 - 03
	平18.234集

目的に応じて情報を収集し、整理し、 取捨選択する力をはぐくむ指導の工夫

— 「キーワードインデックス」「情報ラベル」の作成と活用を通して —

特別研修員 下田 一貴 (沼田市立池田中学校)

《研究の概要》

本研究は、読むことの学習における教材文に関連する情報の収集過程で、「キーワードインデックス」「情報ラベル」を作成・活用する学習活動を取り入れ、目的に応じて情報を収集し、整理し、取捨選択する力をはぐくもうとするものである。キーワードに着目しながら情報を収集したり、情報の概要や価値を整理してラベルに記録したり、ラベルを比較して取捨選択したりすることで、情報を活用して読む力を身に付けていこうとした。

○ はじめに

本校の生徒は「総合的な学習」等で、インターネットを利用して必要な情報を探ることが好きである。しかし、膨大な情報の取捨選択に手間取り、計画通りに活動が進まないことがある。これは、目的に応じて必要な情報を集めることや、収集した情報を取捨選択する能力が十分に身に付いていないことと、情報を整理して、分かりやすく伝える能力にも欠けていることによると考える。

また、読書を楽しむために、学校図書館を利用する生徒は多いが、教科の学習に関連する情報を集めようとする生徒はほとんど見られない。教科の学習でも、図書館を利用する回数は減ってきている。そのため、必要な情報が掲載されている図書を探したり、そこから情報を抜き出したりする力が十分に培われていないと考える。

これまでの説明的な文章の学習により、正確に内容を読み取ろうとする姿勢は見られるようになってきている。しかし、教材文に関連する図書を読むなどして情報を補うことで、内容の理解を広げたり、深めたりすることは十分ではなかった。読書を生活に役立てようとする態度を育てる上で、情報を収集し、活用する能力は必要不可欠である。中学校学習指導要領国語「C読むこと」の第1学年の指導事項「カ 様々な種類の文章から必要な情報を集めるための読み方を身に付けること」を踏まえ、情報を活用する学習活動を設定していく必要がある。

そこで、本研究では目的に応じて情報を収集し、

整理し、取捨選択する力をはぐくむために、説明的な文章を読むことの学習において、教材に関連する情報を書物から集める学習活動を取り入れる。そして、情報を収集する際に、「キーワードインデックス」を作成・活用する学習活動を行う。自分の収集したい情報に含まれるキーワードを書き込んだインデックスを作成することにより、的確に情報を収集できると考える。収集した情報は、「情報ラベル」に情報の概要や価値を記録する。「情報ラベル」の作成により、情報を分かりやすく整理する態度や能力を培える。また、「情報ラベル」から、情報の価値判断ができ、早く正確な取捨選択ができると考える。

以上のことから、説明的な文章を読むことの学習における、教材文に関連する情報を集める活動で「キーワードインデックス」「情報ラベル」を作成・活用することが、目的に応じて情報を収集、整理、取捨選択する力をはぐくむ上で有効であると考え、本主題を設定した。

I 研究の概要

1 基本的な考え方

目的に応じて情報を収集し、整理し、取捨選択する力について

情報を収集する目的は、教材文の内容や筆者のものの見方や考え方についての理解を深めたり、広げたりするためである。収集、整理、取捨選択

した情報を生徒同士が互いに発信し、交流する手段として、ポスターセッションを行う。情報を活用するという事は、情報を収集し、選択し、自分の考えをまとめ、新たな情報として発信していくことであると考え。必要な情報を収集するためには、そのための読み方の習得や読み取る力が必要である。情報を整理するためには、情報の全体像をとらえたり、必要な部分を切り取ったりする力が必要である。

さらに、その情報に、一目で概要が分かるように見出しを付ける（ラベリング）ことができる読み取りの力が必要である。併せて、情報の取捨選択をするためには、相手を意識しながら、収集したいいくつかの情報を比較して、価値判断する（ナンバーリング）ことができる読み取りの力が必要である。これらの読みの力をはぐくむことが、情報を活用する態度や能力を身に付けさせる上で、不可欠なことであると考え。

2 研究の内容と方法

(1) 研究の内容

① 研究の手立て

ア 情報を収集する過程において、自分の調べたい内容のキーワードを考えて、「キーワードインデックス」を作成し、活用することで、目次や索引から、書物や文章中に必要な情報が含まれているかどうかを判断したり、新たに発見したキーワードを抜き書きしたりするという、情報を収集するための読み方を身に付けることができるようにする。

イ 情報を整理する過程において、「情報ラベル」に、必要な情報を抜き書きした上で、情報の概要がわかる小見出しや、目的や相手を意識して判断した重要度や価値を記録することで、情報を整理する力を身に付けられるようにする。

ウ 情報を取捨選択する過程において、「情報ラベル」を並べ、個人やグループで、目的意識や相手意識に沿って、情報の内容を検討したり、比較したり、ナンバーリングしたりすることで、収集した情報全体の中から目的や相手に応じた正しい情報の取捨選択ができるようにする。

② 「キーワードインデックス」について

キーワードとは、自分の求めている情報やテーマにかかわる重要な語句のことである。「キーワードインデックス」を作成することで、テーマからさらに調べる内容が絞り込まれ、必要とする情報を明確にすることができる。一冊の書物には膨大な情報が含まれており、書物が複数になれば、さらに情報が増えるので、必要とする情報を常に念頭に置いて、目次や索引を活用したり、斜め読みしたりしなければ、短時間に必要な情報を収集することはできない。

そこで、「キーワードインデックス」を作成・活用することにより、キーワードに着目しながら、必要な情報を収集するための力をはぐくむことができる。また、キーワードを念頭に置くと、目次や索引を手掛かりにして、必要な情報が含まれているか判断したり、斜め読みでも文章中のキーワードを見付けたりできるようになる。さらに情報を収集する中で、新たなキーワードを発見する度に、それらも書き加えることで、収集する情報を広げたり、深めたりできる。

③ 「情報ラベル」について

「情報ラベル」とは、情報の概要が把握できるような、小見出しや要点、単語メモ、重要度や興味深さ等を書き込むカードである。「情報ラベル」を作成するには、目的や相手を意識して情報を考察することや、内容をまとめて把握することが必要であるため、情報を分かりやすく整理する力をはぐくまれる。

「情報ラベル」を基に発表をしたり、資料等を作成したりする活動を設定することで、目的に応じた情報の整理の仕方や、整理した情報を活用する力を身に付けることができる。また、「情報ラベル」は、複数枚を並べて比較することにより、元の文章を読み返さなくても、情報の取捨選択を行うことができる。その際、どのように情報を活用していくのかという目的や相手の興味・関心などを考えながら、ナンバーリングし、順位を書き込むことにより、情報を取捨選択する力を身に付けることができる。

さらに、同一規格の「情報ラベル」を、他の教材文の学習や、「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の学習での情報収集の段階等においても作成、活用し、情報を収集・整理・活用する力の定着を図っていく。

(2) 研究の方法

① 授業実践計画

対 象	沼田市立池田中学校 1年A組 28名	実施期間	平成18年10月下旬 (10時間)
題材名	「江戸からのメッセージ」 (光村図書 1年)		

② 抽出生徒

A (女)	説明的な文章の学習に対する意欲があり、読解力も優れている。進んで読書に取り組めるが、情報の収集、取捨選択に時間がかかり、読書傾向にも偏りがある。ノンフィクションの書物から情報を収集するための読み方を身に付けさせるとともに、読書の幅をさらに広げさせたい。
B (男)	説明的な文章の学習に対する興味・関心があまり高くなく、読書に対しても親しみを感じていないようである。具体例から教材文への興味を喚起させながら、学習テーマを設定させ、楽しみながら情報を収集できるようにさせたい。

(3) 題材の考察と目標、評価規準

考 察	<p>本題材は「江戸っ子」の生活の様子を紹介したものである。まずは、説明的な文章の既習事項を生かしながら、文章の正確な読み取りを図りたい。文章構成は、三つの大段落に分けられる。要旨は、「江戸っ子の与えられた空間の中で、物を大切にし、助け合って生活していく心の豊かさを知ることができる。そして、江戸の生活の中から現在の私たちの物の豊かさについて考えることができると同時に、心の豊かさというメッセージを受けることができる。」というものである。このように、第一学年の説明的な文章の学習の仕上げとして、文章構成や要旨に着目した学習を行うことが重要であると考えた。また、具体的な事例が多く取り上げられていて、筆者の主張もとらえやすいので、それをしっかりと受け止め、感想や意見をもたせたい。</p> <p>そして次に、「江戸っ子の知恵」について、生徒各自が興味をもったことをさらに追究するために、テーマを決め、書物を活用して、情報を収集・整理・取捨選択をする。そして、ポスターセッションの手法で発信する。本教材は筆者の数多い江戸に関する書物の一つの一部を書き改めたものであり、「江戸っ子の知恵」のほんの触りになっている。生徒の好奇心を喚起しながら、さらに情報を集めようとする意欲を高めたり、さらに違う書物を読んでみようという読書意欲を高めるのに適している。</p>		
目 標	<p>○要旨をとらえ、筆者が述べようとしていることをとらえる。</p> <p>○文章に関連する書物から情報を得るための読み方を身に付ける。</p>		
評 価 規 準	<p>国語への関心・意欲・態度</p> <p>○課題について調べたり、教材文についての理解を深めたり筆者の思いを深くとらえたりするために、進んで情報を収集しようとしている。</p>	<p>読む能力</p> <p>○教材文の要旨を踏まえ、表現されている筆者のものの見方や考え方を理解している。</p> <p>○課題に即してさまざまな種類の文章を読み、必要な情報を収集するための読み方を身に付け、情報を活用して読んでいる。</p>	<p>知識・理解・技能</p> <p>○教材文や関連図書の文章中の多様な語句について理解を深めている。</p>

(4) 指導と評価の計画 (全10時間)

時間	学 習 活 動	学 習 へ の 支 援	評 価 項 目
1	○全文を通読し、初発の感想を書く。 ○「江戸の暮らしや知恵」にかかわるキーワードを見付ける。	○発見したことや疑問等の観点を書き込んだ用紙に感想を書かせる。 ○第二大段落の具体例の中のキーワードに着目させる。	(読) キーワードを手がかりにして、内容を整理し、意味段落の要点をとらえている。 (言) 「リサイクル」「物の豊かさ」「心の豊かさ」という語句に着目している。
2	○大段落ごとの要点を基に文章の要旨をまとめる。 ○要旨を踏まえ、筆者がこの文章で述べようとしていることをまとめる。	○前時にまとめた要点を基に、キーワードや本文の引用を利用して、文章全体の要旨をまとめさせる。 ○筆者の述べようとしていることや、江戸の人々の暮らしや豊かさについての感想をグループで交流させる。	(関) 進んで感想を交流しようとしている。 (読) キーワードや引用を用いて要旨をまとめている。 (言) 多様な語句について理解を深めている。
3	○教材文から学習テーマを設定する。	○「江戸の庶民の暮らし」に関連する7つの大テーマから一つ選択させ、小テーマについては一人一人に設定させる。	(読) 教材文の要旨をとらえた上で自分のものの見方や考え方を広くしていくようなテーマを設定している。
4	【手だてア】 ○キーワードインデックスに、テーマに関連するキーワードを書き込み、情報を収集する。	○キーワードをキーワードインデックスに書き込ませ、目次や索引を利用しながら必要な情報が載っている書物を見付け、情報収集させる。 ○収集中に発見した新しいキーワードをインデックスに書き加えさせる。	(関) 課題について関心もちテーマに沿って、進んで調べたり考えたりしようとしている。 (読) 書物の目次や索引から、必要な情報があるかどうか判断している。
5 6	【手だてイ】 ○収集した情報の単語メモ等を情報ラベルに書き込む。 ○収集した情報の概要が分かるように整理する。	○情報ラベルに必要な情報を抜き書きさせたり、単語メモ等を書き込ませるとともに、情報の概要が分かるように、小見出しを情報ラベルに書き込ませる。 ○重要度や相手の興味から価値判断させ、情報ラベルの☆印を塗りつぶさせる。	(読) 必要な情報を印を付けたり、抜き書きしたりしながら必要な情報を収集している。 (読) キーワードを手がかりにして、内容を整理し、小見出しを付けている。
7 8	【手だてウ】 ○情報ラベルを活用した「情報交換会」を通して、情報を取捨選択する。 ○グループで紹介する情報を選択する。	○テーマの異なる者同士でグループを作らせ、情報ラベルについて説明させ、質疑応答をさせる。 ○個々に情報ラベルを比較・検討させながら、取捨選択させる。 ○同じ大テーマの者同士のグループで、個々の情報ラベルを比較・検討し、ポスターにする情報を選択させる。	(関) 進んで発言したり、友達の発言を注意して聞き取ったりしようとしている。 (読) 目的や相手を意識し、収集した情報を取捨選択している。
9	○グループで話し合いながらポスターを制作する。	○「見やすく分かりやすく制作する」ことを意識させ、情報をまとめてポスターに盛り込ませる。	(関) 選択した情報を基に、友達と協力してポスターを制作しようとしている。
10	○ポスターセッションを行い、調べたことを交流し合う。	○必要に応じて質疑応答をさせながら、理解を広げたり深めたりできるようにさせる。	(関) 理解を深めたり、ものの見方や考え方を広くしたりしようとしながらポスターセッションに参加しようとしている。

II 実践の概要

ア 必要な情報が含まれているかをどうか判断したり、早く正確に情報を収集したりする力を身に付けるために、調べるテーマに関わるキーワードを「キーワードインデックス」に書き出し、それを活用しながら、情報を収集する活動

大テーマから、中テーマ、小テーマを設定する過程で、江戸時代の生活について広く触れている事典的な図書を参考にさせたこともあり、そこで見付けた用語をキーワードとして、キーワードインデックスに書き込む生徒が多かった。そして、図書の目次や索引を見ながら、必要な情報が含まれている図書とそのページを探していた。キーワードに関する情報を情報ラベルにメモすることは、ほとんどの生徒ができていた。

また、新たなキーワードを見付けると、キーワードインデックス(資料1)に書き込み、図書を探すということを繰り返す生徒が多かった。情報を収集する活動の1時間目で、ほぼ全生徒が適切な図書を探すことができていた。

抽出生徒Aは、大テーマ「江戸のファッション」を選択し、中テーマは「女の人の身だしなみ」、さらに、小テーマを「化粧」と設定した。最初のキーワードを「化粧」として、情報の収集を開始した。指導計画の4時間目は関連するキーワードは一つであった。5時間目は2つになり、最終的には、4つになった。さらに関連するキーワードは最初から、「紅」「白粉」等4つを書き込んでいて、増減はなかった。4冊の図書から、情報を効率よく収集していた。

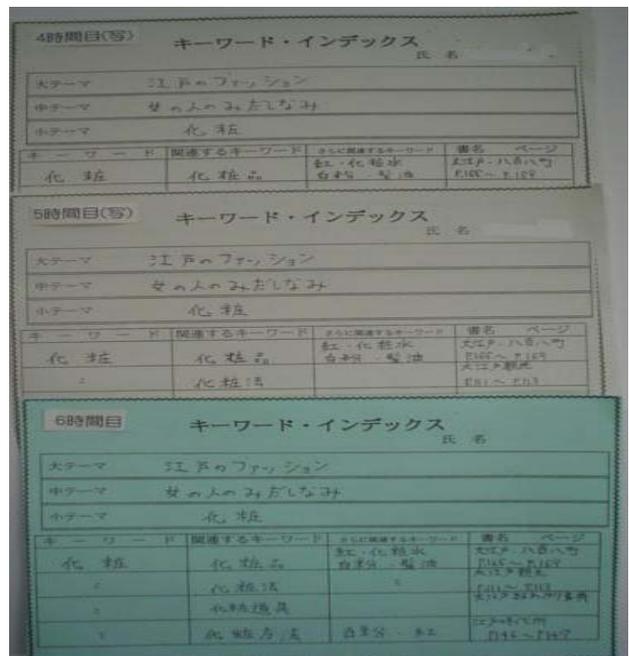
読解力もあり、意欲的に学習に取り組める抽出生徒Aであるが、ややもすると、情報を収集し過ぎてしまい、時間が掛かってしまうことが心配された。しかし、キーワードインデックスを用いたことにより、収集する情報が絞り込まれたため、短時間で効率よく情報が収集できたと考える。

抽出生徒Bは、大テーマ「江戸の楽しみ・遊び」を選択した。しかし、指導計画の3時間目に小テーマを絞り切れず、4時間目もキーワードインデックスには、大テーマしか書き込めなかった。しかし、5時間目に小テーマを「からくり人形」と決め、からくり人形の種類をキーワードインデックス(資料2)に書き込んだ。そして、2冊の関連図書から、情報を収集し始めた。授業中は、あま

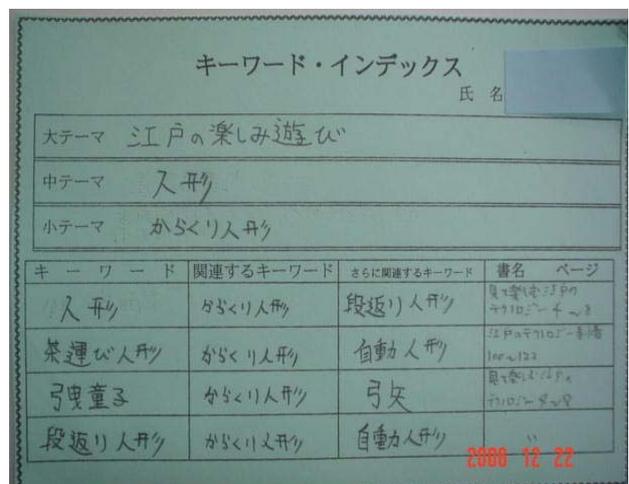
り楽しそうな様子を見せないBではあるが、今回は、興味深そうに図書を読んでいた。

Bは、テーマ設定の段階でつまづいてしまい、収集の開始が遅れてしまった。読むことにもやや抵抗を感じることもあり、先行きが心配された。しかし、興味のある分野が見付き、キーワードを絞り込めたことで、読む部分が明らかになったため、最後まで諦めずに学習に取り組むことができた。キーワードを書かなければ、Bのような生徒は、収集する情報を絞り込むことができず、何をどうやって調べたらいいのかわからなかったり、調べ始められても膨大な情報量の前に意欲を失ったりしたと考えられる。

資料1 抽出生徒Aのキーワードインデックス (4～6時間目)



資料2 抽出生徒Bのキーワードインデックス



以上のことから、調べるテーマに関わるキーワードを「キーワードインデックス」に書き出し、それを活用することにより、課題について調べるためにさまざまな文章を読むとき、必要な情報が含まれているかどうか判断したり、必要な情報を早く正確に収集したりすることができたと考える。

イ 情報を整理する力を身に付けるために、「情報ラベル」に収集した情報の要点を抜き書きしたり、小見出しを付けたりした上で、目的や相手を意識し、情報の重要度や価値について検討し、「情報ラベル」に記録する活動

全員の生徒が、図書を読みながら情報ラベルに書き込みをする姿が見られた。小見出しや概要、さらに、単語メモを書き込んでいた。書名やページも記入しており、再度書物を読む際にも役立っていた。また、情報交換会での説明やポスターの作成時にも、情報ラベルを使用する生徒が多かった。一人3枚の情報ラベルを作成することを当初の目標としたが、最高は9枚であった。また、ほとんどの生徒が3枚以上情報ラベルを作成した。

抽出生徒Aは、3枚の情報ラベルを作成した(資料3)。小見出しと要点メモや単語メモが書き込まれており、情報の概要が分かるようになっている。情報交換会やポスターセッションでも、情報ラベルを見ながら分かりやすい説明をしていた。

資料3 抽出生徒Aの情報ラベル

氏名 _____ 情報ラベル
No. 1 重要度 ★★★★★ 信頼性 ★★★★★
おもしろさ ★★★★★

大テーマ 江戸ファッション	中テーマ 女のみなしなみ
小テーマ 化粧	

小見出しまたは概要
化粧方法

メモ(友達に伝えたいこと、覚えておきたいことなどを書こう)
白粉
一般的に、白粉!
水で溶いて刷毛で
顔、首、足胸に
濃化粧 → 薄化粧

書名 江戸時代館 出版社名 不明

抽出生徒Bは、3枚の情報ラベルを作成した(資料4)。「からくり人形」の種類を調べ、1枚情報ラベルを完成させたところで、行き詰まってしまった。そこで、江戸の遊びとして、「紋切り遊び」

を追加し、情報ラベルを作成した。「からくり人形」について、深めたり、広げたりさせたかったが、専門的な語句や難解な図が多かったためか断念してしまったようである。テーマとは関連の薄い「紋切り遊び」についての情報収集となったが、情報を整理しながら2枚の情報ラベルを作ることができた。

「情報の整理をしながら、情報ラベルを作成できたか。」という自己評価については、1、2時間目とも、「A」と答えた生徒は18%で、「B」については、61%、64%であった。情報ラベルは図書に記載されている文章を丸写ししたりするのに比べると、少ない負担でその情報の概要が分かるようになるので、整理できたと感じたようだ。

資料4 抽出生徒Bの情報ラベル

氏名 _____ 情報ラベル
No. 1 重要度 ★★★★★ 信頼性 ★★★★★
おもしろさ ★★★★★

大テーマ 江戸の楽しみ遊び	中テーマ 入舟
小テーマ からくり人形	

小見出しまたは概要
からくり人形の種類

メモ(友達に伝えたいこと、覚えておきたいことなどを書こう)
段廻り人形、弓曳童子、
茶運び人形

書名 大江戸博物館 出版社名 不明

また、情報交換会で、「情報を分かりやすく説明できたか。」という自己評価については、「A」と答えた生徒が15%、「B」が62%という結果であった。このことから、情報ラベルに情報を分かりやすく整理して、記録することができ、そのことが、説明にも役立っていたと考える。また、最後のポスターセッションでの「情報を分かりやすく整理して説明できたか。」という自己評価では、「A」が22%、「B」が56%であった。この結果から、情報ラベルを基にポスターを制作したり、セッションで説明したりできているので、情報ラベルを作成する段階から、目的に応じて情報を整理する力をはぐくむことができたと思われる。

以上のことから、「情報ラベル」に収集した情報の要点を抜き書きしたり、小見出しを付けたりしたことを通して、目的や相手を意識し、情報の重要度や価値について検討し、「情報ラベル」に記録することにより、情報を整理する力を身に付けることができた。

ウ 目的や相手に応じた正しい情報の取捨選択をする力を身に付けるために、「情報ラベル」を並べて、それぞれの情報について価値を吟味したり、比較したりした上で、ナンバーリングしたり、「情報ラベル」を基に友達と情報交換したりする活動

情報の取捨選択をする段階では、まず、異なるテーマの生徒4人でグループを作り、情報交換会(資料5)を行った。次に、同じ大テーマの生徒4人でグループを作り、ポスターセッションで取り上げる情報を選択する編集会議を行った。

情報交換会の目的は、自分の情報について、他の生徒に興味をもってもらえるか、分かりやすく整理してあるかといったことを客観的に把握し、取捨選択やナンバーリングに生かせるようにすることである。生徒は、グループ全員が見えるように3枚以上の情報ラベルをテーブル中央に置き、図書を手にも自分の収集した情報について興味を引くと思われる順に説明した。感想の交流、質疑応答、意見交換の後、一人一人が、情報ラベルに興味をもった順に並べる活動を行った。ほとんどの生徒が意欲的に情報交換会に取り組むことができていた。その後、情報ラベルの重要度や相手の興味等を吟味し、ポスターにしたい順にナンバーリングさせた。ポスターセッションにより、友達に情報を紹介するという「目的」と、その情報についての知識をほとんどもたない友達という「相手」を意識して、情報の取捨選択ができていた。

資料5 活動の様子 情報交換会



「情報交換会がうまくできた。」という自己評価は、「A」と答えた生徒が31%で、「B」は46%であった。多くの生徒が友達の意見を参考にしながら、情報の重要度や価値を吟味し、ポスターセッションで発表する情報を選択していた。

抽出生徒Aは、「友達からもらったアドバイスで、取捨選択ができました。」(資料6)と感想を書いていた。情報交換会后、3枚の情報ラベルの重要度や相手の興味等を吟味し、ナンバーリングしていた。

資料6 抽出生徒の振り返りシート

振り返りシート

氏名 _____

1 情報交換会で、情報を分かりやすく整理して説明することができたか。	(A) B C D
2 情報交換会で、積極的に質問や意見を言うことができたか。	(A) B C D
3 情報交換会で話し合ったことを参考にして、情報の取捨選択をすることができたか。	A (B) C D

☆ この時間の感想を書いてください。

この時間で色々な意見を聞きました。他の人にアドバイスできてよかったです。

他の人からもらったアドバイスで取捨選択ができました。

発表もよくできてよかったです。

抽出生徒Bは、「情報交換会がうまくできた。」と感想を書いた。「からくり人形」と「紋切り遊び」それぞれ1枚ずつの情報ラベルを選択していた。テーマの異なる友達に情報を説明することが、分かりやすく情報を情報ラベルに整理しておくことにつながり、その情報ラベルを比較することで、取捨選択がしやすくなったと考えられる。また、最初の自分のナンバーリングを変更した生徒も多く、ポスターセッションの相手となる友達の意見を参考にさせたことで、相手に応じた取捨選択ができたと考える。

編集会議では、一人一人がポスターセッションで取り上げたい情報について説明し、質問し合うことを中心に話し合いを進めた。質問に答えることにより、自分の情報の欠けている部分や足りない部分について確認し、ポスター制作やポスターセッションに生かすことを目的とした。また、それぞれの情報が重複しないように調整することと、ポスターセッションでの発表順等を話し合わせた。生徒は、情報交換会を経験しているので、説明や質疑等も大変スムーズに行えていた。また、ポスターについては、模造紙が1人1枚、グループ4枚という制限があるため、個々の情報ラベルを吟味して、取り上げる情報量を検討していた。

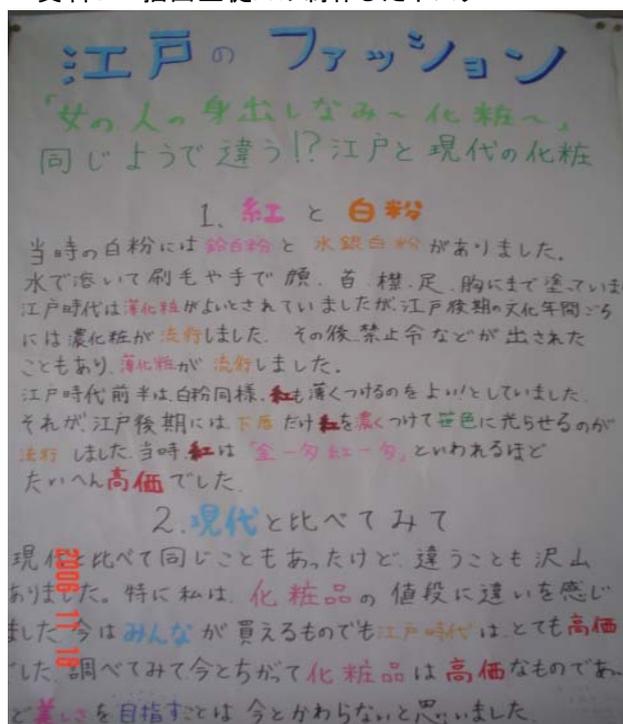
二つの話し合いともに、情報ラベルは並べて情報の比較ができ、並べ替え等の操作もしやすいので、ナンバーリングも短時間で行えた。

自分の収集した情報はすべて紹介したいと思い

がちであるが、情報交換会と編集会議を通して取捨選択をしたことで、友達の興味の傾向が把握できた上に、キーワードごとに情報ラベルを分けたことで、不必要な情報については思い切って省くことができたと思われる。逆に、情報不足の場合には、新しい情報ラベルを加えればよいので、情報を補う面でも情報ラベルは役に立った。

ポスター(資料7)を制作する際も、情報ラベルを見ながら行う生徒が多かった。ポスターセッションを行うという目的を意識しながら、情報ラベルに情報が整理できた結果であると考えられる。

資料7 抽出生徒Aの制作したポスター



最後のポスターセッション(資料8)では、ほとんどの生徒が、ポスターと、情報ラベルを見ながら、生き生きと発表することができた。質問の数はグループによって差はあったが、ほとんどの生徒が興味をもちながら、集中して説明を聞いていた。感想も「楽しかった」と書いた生徒が多かった。相手の興味や関心を意識して、それぞれの生徒が発表の情報を取捨選択したことが、ポスターセッションの楽しさに結び付いたと思われる。

以上のことから、「情報ラベル」を並べて、それぞれの情報について価値を吟味したり、比較したりした上で、ナンバーリングいくことや、「情報ラベル」を基に友達と情報交換したことにより、目的や相手に応じた正しい情報の取捨選択をすることができた。

資料8 活動の様子 ポスターセッション



Ⅲ 研究のまとめと今後の課題

1 成果

- 調べるテーマを設定した後に、キーワードを考え、それをキーワードインデックスに書き込んだことは、収集する情報を絞り込むことになり、早く正確な情報収集ができた。キーワードを手掛りに、複数の書物から情報を探すといった、情報を収集するための読み方を身に付けさせることができた。
- 情報ラベルの作成は、文章の丸写しではなく、要点を書き出したり、小見出しを付けるといった活動が必要であり、情報を整理する力を身に付けるのに役立った。また、情報の概要が分かり、並べて比較ができる情報ラベルを活用することで、情報の取捨選択がしやすくなった。

2 課題

- 教材文の読み取りから、調べるテーマの設定、情報の収集から発信まで、様々な学習活動を盛り込む必要があったので、生徒がねらいや目的を理解した上で、より見通しをもって学習に取り組めるようにしていきたい。

(担当指導主事 村田 伸宏)

Web検索キーワード

【国語—中 読むこと キーワード ラベル
情報の収集・整理・取捨選択】

〈参考文献〉

- ・河野 庸介 編著 『説明的な文章の指導法』 明治図書(2002)
- ・花田 修一 編著 『読むことの授業改革』 三省堂(2000)